

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成25年10月18日

施設名	高知県立坂本龍馬記念館	所管課	文化推進課
-----	-------------	-----	-------

1 施設の概要

指定管理者名	公益財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年 4月 1日 ~ 平成26年 3月31日
施設所在地	高知市浦戸城山830番地		
事業内容	坂本龍馬を顕彰する施設として、坂本龍馬に関する資料の収集、保管、及び展示を行う。		
施設内容	<建物>延べ床面積:1,841.62㎡ SRC造 一部鉄骨地上2階地下2階 <主要施設>常設展示室、企画展示室、図書・ビデオコーナー、ミュージアムショップ、談話室など <開館時間>午前9時~午後5時 <休館日> 12月27日~1月1日 <主な料金> 入館料 大人(18才以上)500円 ※高校生以下、高知県長寿手帳(65歳以上)、身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳を所持する者と介護又は介助者1名、高知市長寿手帳を所持する者は無料		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 5人 契約職員: 9人 合計: 15人		

※職員数は平成24年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成23年度(決算)	平成24年度(決算)	平成25年度(予算)
収入	県支出金	37,102	42,104	42,104
	事業収入	89,812	67,950	56,642
	その他	27,787	64	9,132
	収入計	154,701	110,118	107,878
支出	事業費	132,248	102,365	106,464
	(うち人件費)	(53,093)	(50,418)	(54,933)
	その他	27,183	1,097	1,414
	支出計	159,431	103,462	107,878
収支差額 (a)-(b)		-4,730	6,656	0

3 利用状況

	平成23年度(実績)	平成24年度(実績)	前年度比
①年間利用者数(単位:人)	228,951 人	171,768 人	-57,183 人
	<利用実績> 平成24年度の入館者数は、前年より57,183人減の171,768人であったが、平年(過去10年平均125,512人:H11~H20)を大きく上回るものであった。 4本の企画展を開催したほか、シェイクハンド龍馬像お披露目1周年を記念して、「『竜馬が行く』リレー朗読」や約900人の参加を得て、人の鎖(握手)でつなぐ「みんなあでシェイクハンドぜよ!」などを実施した。		

要求水準 1

「龍馬への入口」から一歩進んだ「龍馬の中核施設」へ

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 龍馬と関連分野に関する調査研究を進め、その成果である専門性の裏付けのもとに、龍馬に関する新しい発見が常にできる展示を行う。</p> <p>・常設展示の内容は常に見直すとともに、企画展示を年間4回程度行う。</p> <p>・資料収集や他の博物館との連携や資料所有者との協調を十分図ることなどにより、「本物の資料が見たい」との声に応える。</p> <p>・調査研究の成果は、展示や図録への反映のほか調査報告や研究発表などの形で行う。</p>	B	<p>・本物へのこだわり、常設がマンネリ化しないことへの努力をさらに続けて欲しい</p> <p>・常設展、企画展(4回)をミックスさせて積極的な展示をしている</p> <p>・調査研究は成果を上げているが、資料収集の受け入れにもっと力を入れて欲しい</p> <p>・本物の展示資料が少ないなかで、イベント等の開催などを交え、外に向かって積極的な情報発信を行っている</p> <p>・子どもにも理解出来る展示の工夫をしている</p> <p>・土佐藩京都藩邸の資料の紹介も出来ている</p> <p>・平井収二郎と加尾など、これまでにない企画展の開催ができた</p> <p>・学芸員が1人増えたことにより、充実した研究や情報発信ができるようになった</p> <p>・本物を見せる努力と内容を充実させる工夫、学芸員の補充ができています</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 龍馬に関する専門施設として、「龍馬のことなら何でも分かる」との評価を定着させる。</p> <p>・県内外からの様々な問い合わせ、照会に対して、素早く正しく応えることのできる蓄積と体制を持つ。</p> <p>・龍馬への理解を深め、新たなファンの開拓にもつながるよう、解説員を配置しギャラリートークを充実させるとともに、来館者の疑問・質問に適切に応える体制とする。</p> <p>・入館者がどこからきたか、何回目の来館か、何を目的に来たか等の入館者情報を適切な方法で収集・分析し、入館者の増加戦略やニーズへの対応に生かす。</p> <p>・カルチャーサポーターを運営のパートナーとして位置付け、実効ある人員及び体制を整える。</p>	A	<p>・ギャラリートーク(館内解説)は来館者、時間、人数に関係なく実施するなど充実している</p> <p>・龍馬ファンの期待に応えるおもてなしを望む</p> <p>・館長のリーダーシップと創意工夫、3名の学芸員の方々の外部への積極的な広報活動が生きている</p> <p>・県内他の博物館と連携したミュージアムネットワークや、館内業務補助や解説補助をボランティアで行っているカルチャーサポーターは評価できる</p> <p>・龍馬の重要施設としての認識が深まる</p> <p>・研修、研鑽に対する積極姿勢が伺える</p> <p>・桂浜の銅像と記念館のシェイクハンド像をつなぐシェイクハンドイベントに参加した人がリピーターとなり、良きメッセンジャーになっている</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 龍馬に関する情報を全国に発信する。</p> <p>・広報誌を年4回以上発行し、常に内容の充実を図る。</p> <p>・ホームページは、全国に存在する龍馬ファンに向けて有効な手段となる。魅力あるホームページを開発してアクセス数を前年度比較で順次増やし、初めての来館者の増加、リピーターの増加を目指す。</p>	B	<p>・せつかくの広報誌であるので、もっと見やすく洗練させて欲しい</p> <p>・広報誌(年4回発行)を目にする場所に工夫が欲しい</p> <p>・ホームページは分かりやすく発信されている</p> <p>・ホームページの閲覧が多く、情報発信は上手い</p> <p>・情報発信が上手い</p> <p>・メディアを取り込んだ発信が十分されている</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 教育普及活動を充実し、県民、特に次代を担う子どもたちに龍馬について正しく理解してもらおう。</p> <p>・龍馬関連の講座やバスツアーなどの企画は、来館者の拡大や県立文化施設としての観点から、全県を対象として実施する。</p> <p>・学校との連携により、出前授業の実施や校外学習活動の受入れを積極的に行うことで子どもたちが記念館を通じて幕末維新や土佐の歴史を学び、郷土に対する誇りと愛着を育む。</p> <p>・子どもを対象とする教育普及活動は、出前授業や校外学習など合計で5,000人程度を対象に計画をもって取組む。</p>	A	<p>・龍馬学習指定校として高知市立昭和小学校と連携した取り組みが成果を上げた。今後の広がりに期待したい</p> <p>・学校教育と社会で求められる知識のギャップを、児童・生徒が土佐の歴史の学習し、郷土への愛着を育む記念館の取り組みがカバーしている</p> <p>・地域の子ども達に龍馬を理解してもらおうことに努力している</p> <p>・教育現場との連携が密にできている</p> <p>・精力的に外に出て講演や教室に対応し、出前授業や校外学習などで5000人以上の子供たちへの理解に力を入れている</p>

要求水準 2

「龍馬を求める人々の思いに応える」

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 龍馬の生きた時代と龍馬の熱い生き様に触れ、来館者に勇気や元気を与える記念館とする。また、龍馬の生き方に心寄せる人々が、人生の節目節目に訪れたいと思える記念館とする。</p> <p>・土佐の気風や幕末維新の息吹が感じられる展示や解説を心がける。</p> <p>・来館者が龍馬に宛てて手紙を書く「拝啓龍馬殿」など、来館者の思いを汲み上げる取組を継続して行い、その結果を広報する。</p>	B	<p>・館の充実にはより積極的に取り組んで欲しい</p> <p>・来場者に館の思いをほぼ十分伝えている</p> <p>・展示方法は今後も一層の努力をして欲しい</p> <p>・私心のない龍馬の精神と生き様、手を結び合う家族・仲間との絆、世のため人のために役に立ちたい、「感動・感激」をこれからも伝えて欲しい</p> <p>・11月のシェイクハンドイベントへの予想を超える900名の参加と、桂浜の銅像と記念館のシェイクハンド像を手でつなぐという3分間にかけた情熱が感じられた</p> <p>・坂本龍馬記念館で土層を取り上げるのは目新しい</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 「龍馬像」「龍馬の見た海」「坂本龍馬記念館」という舞台装置を最大限生かして、記念館及び桂浜の魅力を高める。</p>	A	<p>・桂浜を盛り上げる意欲が感じられる</p> <p>・三位一体のPRの力は良い</p> <p>・常に努力している</p> <p>・桂浜の土産物店や周辺施設と連携して割引制度を実施するなど協力ができている</p>

「観光地にある立地条件を生かし、来館者の増加に努める」

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 開館以来、漸減傾向にあるとはいえ、年間11万人以上もの来館者がある。平成18年度は、前年度比17%増、過去5年間の平均は12万3千人(平成18年度を除いた場合は12万7百人)である。今なお衰えない龍馬人気を背景に、魅力ある記念館の運営を行うことで、5年間を通じてそれらを上回る年間13万人以上の入館者を目指す。</p> <p>・桂浜やその他観光施設への入込者と来館者との相関関係や、月ごと、日ごとの入館者数など、観光客の動向を分析し、タイムリーな企画展を計画する。</p> <p>・県内からの来館者の割合及びニーズを把握し、増加のための戦略を立てる。</p> <p>・観光事業者や旅行代理店、行政機関などと連携・協力して必要な対策をとる。</p>	A	<p>・入館者は目標を上回ったとはいえ前年より5万人減となっている。龍馬伝効果から脱却して館の魅力で集客できるよう更に努力して欲しい</p> <p>・来館数の増加に向けての工夫、観光・旅行者と日々PR、企画打合せをしている</p> <p>・施設の目的が明確で良い</p> <p>・ブームのあるなしにかかわらず一定の基礎的な入館者を集めている</p>

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>○ 県外から多くの観光客が来館するという特性を生かして、龍馬を通じた高知県のイメージアップに貢献する。</p> <p>・専門性のほか、高知らしさを感じていただく運営に努める。</p> <p>・ホスピタリティや美観の維持の面でサービス水準を設定し、来館者に心から来て良かったという高い満足度を感じていただく。アンケート調査などにより、その水準を把握する。</p>	A	<p>・龍馬の殿堂の意識をしっかりと持ち取り組んでいる</p> <p>・観光客が利用するトイレにおいて「おもてなし」に取り組む「おもてなしトイレ」の認定を受けたのは評価できる</p> <p>・バリアフリーの配慮もされている</p> <p>・高知県のイメージアップへの貢献度は大きい</p>

効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理

評価項目	評価	意見(コメント)
<p>適正な管理運営の確保</p> <p>社会的責任 ・法令等の遵守 ・個人情報、情報公開の状況</p> <p>建物や設備の管理 ・点検・修繕の実績 ・業務委託の状況</p> <p>危機管理 ・風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 ・マニュアルの作成 ・職員研修</p>	A	<p>・水・米などの備蓄を行うとともに、黒字となり準備資金を計上できたことは良かった</p> <p>・毎年極めて多くの入館者があり、「龍馬ファンの聖地」として定着している。クレームへの対応も真摯である</p> <p>・常に目標を上回る入館者がある</p>
<p>利用者サービスの維持向上</p> <p>サービス向上への取組 ・自己点検・評価の状況 ・事故、クレームへの対応 ・職員の専門性の向上 ・研修の実施状況 ・その他サービス向上の取組</p>		
<p>利用実績</p> <p>利用実績の状況 ・利用状況の分析</p>		
<p>収支の状況</p> <p>経営努力 ・収入増加の取組 ・経費削減の取組</p>		

評価項目	評価	意見(コメント)
総合評価	A	<p>・総じて積極的な取り組みが見られ、龍馬の本家の意識も高い</p> <p>・弱点をカバーし、桂浜の中核として更に発展させて欲しい</p> <p>・太平洋の眺望はずばらしい。もっと活用できないかと思う</p> <p>・施設の制約から外に打って出る戦略に成功している。しかし核になる史料収集、保存には新たな施設が必要である</p> <p>・史実があいまいでも魅力がある龍馬のSTORYを伝えるようにしていることは評価できる</p> <p>・外国からの来館が増えてきている</p> <p>・龍馬ファンの本物に対してのこだわりがあるので、できる限り本物を展示していただきたい</p> <p>・シェイクハンドイベントは人の集まりが予想以上に多く、龍馬人気を裏付けた。次年度につながるイベントである</p> <p>・資料を見せるより、イベントやファンの集まりや解説を聞いて龍馬スピリッツに触れる色合いが濃い</p> <p>・県内外及び海外に強力に発信している</p>
県の評価	A	<p>・「龍馬伝」のあったH22の44万人には及ばないものの、17万人の入館者を迎え入れている。</p> <p>・年4回の企画展と広報誌の発行、ホームページによる情報発信、各種イベントの実施など積極的に入館者増に繋がる取り組みがなされている。</p> <p>・小学校社会科の全国大会では、学校と地域の博物館の連携がうまくいった事例として取り上げられたこと、館内学習や出前授業等で年間5000人の生徒の参加があったことなど、教育普及活動も評価できる。</p>

【評価の目安】

- A：仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
- B：おおむね仕様書の内容ごおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
- C：仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
- D：管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの

この「4. 県の要求水準に対する評価」は、外部の有識者等で構成する委員会による評価及び意見と、それらをもとに県が評価及び意見を付したものです。

平成24年度事業報告書

(1) 坂本龍馬記念館

平成24年度は、下記の4本の企画展を開催したほか、館便り「飛騰」の発行や小学生を対象とした出前教育の実施等による教育普及活動を推進するとともに、「現代龍馬学会」総会及び発表会の活動や、龍馬検定システムの継続により、龍馬の顕彰と龍馬思想の普及はもとより、龍馬をより身近に感じてもらうための取り組みを進めた。

また、シェイクハンド龍馬像お披露目1周年を記念して、11月に「『竜馬がゆく』リレー朗読」や約900人の参加を得て、人の鎖（握手）で繋ぐ「みんなあでシェイクハンドぜよ！」などを実施した。

ア 坂本龍馬記念館利用状況

展覧会	入館者(人)	料金(千円)	備 考
常設展・企画展	171,768	65,947	(入館者内訳) 一 般 : 141,141 人 小中高生 : 15,644 人 乳幼児 : 3,798 人 減免・招待者: 11,185 人

イ 企画展

企画展名	期 間	日数	入館者数(人)
“龍馬の青春” 『龍馬と加尾と収二郎』展	H24. 4. 1(日)～H24. 6.29(金)	90	42,547
東洋暗殺！動く幕末土佐 『吉田東洋と開成館』展	H24. 6.30(土)～H24. 9.28(金)	91	53,554
もう一つの“真実”—京都藩邸史料から— 『“土佐藩探索御用役”がみた幕末』展	H24. 9.29(土)～H25. 1.11(金)	105	45,909
“筆まめ”龍馬 『龍馬の言伝—手紙の楽しみ方—』展	H25. 1.12(土)～H25. 3.31(日)	79	29,758

ウ 企画展開連事業等

事業名		実施日	参加人員(人)	
龍馬検定	初級	通年	5,906	
	中級	通年	60	
	上級	4/16～ 6/15	}	63
		8/16～10/15		
	11/15～ 1/15			
現代龍馬学会	第4回現代龍馬学会総会・研究発表会を開催。 (会場:国民宿舎桂浜荘)	H24. 5.12(土)	82	
出前授業	高知市、香美市、香南市、安芸市、土佐町など県内の小学校を中心に、館のOB職員が出前授業を21施設で実施した。	H24.11.14(水)～ H25. 3.18(月)	981 (教員、保護者146人含む)	
こども教室等	小・中学生を対象に、館の職員が、「紋切りうちわを作ろう」、「立体お面作り」、「おひなさま作り」の工作教室を開催。	H24. 8. 6(土) H24. 8.20(土) H25. 2.18(土)	49 47 15 (保護者を含む)	
	イオンワークショップ「ミュージアムへ行こう！」で「紋切りのしおりとコースターを作ろう」を開催。 (会場:イオンモール)	H24. 6.16(土)	19	